

## 試験研究成果普及情報

部門	病害虫	対象	普及
課題名：ナシ「幸水」の心腐れ症の発生と対策			
[ 要約 ] ナシ「幸水」果実の心腐れ症は、主に胴枯病菌の感染により発生する。開花期から幼果期にかけての殺菌剤の散布により防除できる。			
キーワード（専門区分）作物病害		（研究対象）果樹類 - ニホンナシ	
（フリーキーワード）ニホンナシ、幸水、心腐れ症、胴枯病菌、防除			
実施機関名（主 査） 農業総合研究センター生産環境部病理研究室 （協力機関） （実施期間） 2003年度～2004年度			

### [ 目的及び背景 ]

近年、ナシ「幸水」果実において、収穫後に発生する心腐れ症状が問題になっている。その発生実態を調査し、防除対策を明らかにする。

### [ 成果内容 ]

- 1．心腐れ症（写真1）は、同じく貯蔵病害である輪紋病よりも多く発生している（表1）。
- 2．心腐れ症の主な病原菌は、糸状菌の胴枯病菌（*Phomopsis fukusii*）である（表1）。
- 3．花～果実へ胞子を時期別に接種したところ、果実の発症は5月までの接種と7月下旬の接種が多かった（図1）。ただし、開花直前から幼果期にかけての、10日間隔、5回の殺菌剤散布で防除効果が得られたことから、胴枯病菌の主要な感染時期は開花期から幼果期にかけてであると思われる（図2）。
- 4．効果が高く、適用のある殺菌剤は、ジチアノン剤、ジラム・チウラム剤である。（図2）。

### [ 留意事項 ]

- 1．伝染源の密度を下げるため、園内の胴枯病罹病枝や病斑の除去を行う。
- 2．収穫後の高温条件下で発生が助長されるので、収穫果の保管は冷所で行うよう努める。
- 3．胴枯病菌よりも頻度は少ないものの、フザリウム属菌も心腐れ症の原因となる。夏の気温が平年より著しく高かった2001年及び2004年に、収穫始めの果実で発生が確認されている。収穫後の腐敗の進展は、胴枯病菌によるものよりも早い傾向にある。

[ 普及対象地域 ] 県下全域

[ 行政上の措置 ]

[ 普及状況 ]

[ 成果の概要 ]

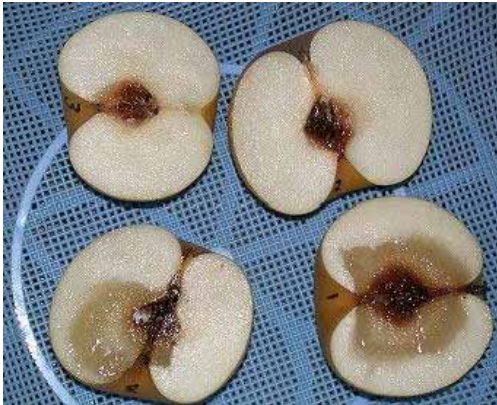


表1 「幸水」における心腐れ症と輪紋病の発生

調査ほ場 <sup>1)</sup>	年次	発病果率 (%) <sup>2)</sup>		心腐れ発症果からの、 胴枯病菌の分離頻度 (分離果数 / 発症果数)
		心腐れ症	輪紋病	
センター内	2001	6.0	4.0	6 / 6
	2002	4.7	0.0	7 / 7
	2003	1.5	0.0	3 / 3
現地園	2001	22.6	0.0	28 / 38
	2002	8.5	1.2	6 / 7
	2003	22.7	3.0	14 / 15

1) 両園とも防除暦に準じた防除を実施  
2) 収穫後7日間、25℃で貯蔵後に調査

写真1 ナシ「幸水」の心腐れ症

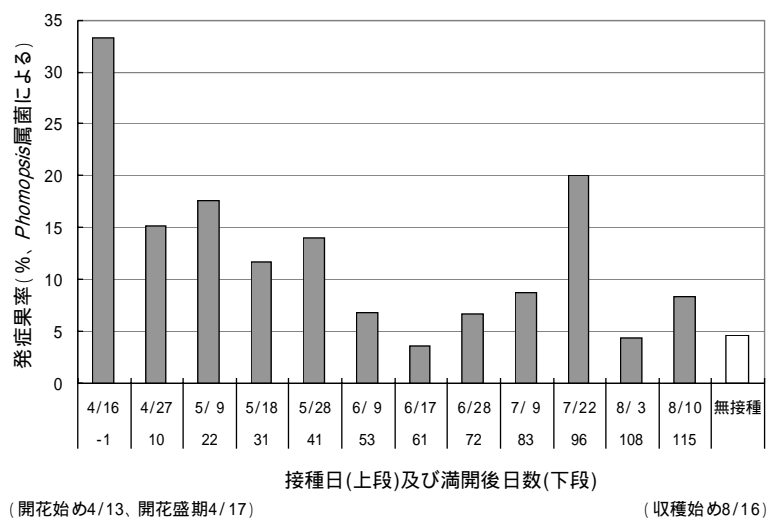


図1 胴枯病菌の孢子懸濁液の時期別接種による発症果率の推移 (2003年)

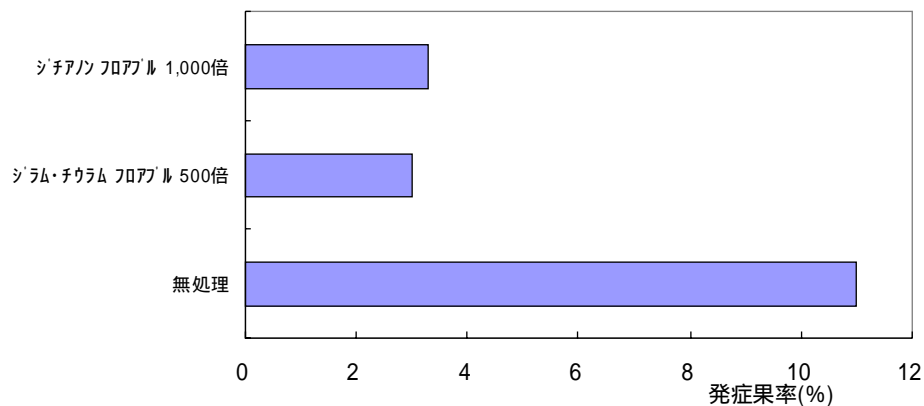


図2 「幸水」の心腐れ症に対する各種殺菌剤の防除効果 (2003年)  
各剤を開花直前(4/14)より約10日間隔で5回散布(ただしジチアノンフロアブルの登録上の総使用回数は4回まで)

[ 発表及び関連文献 ]

・ナシ心腐れ症の発生と防除について、千葉の植物防疫、第109号、2005年

[ その他 ]

2002年度試験研究要望課題 (提起機関: 園芸農産課)